

「ごみの減量化」に関する意識調査

調査目的：「ごみの減量化」に関する現時点での県民の意識などを把握し、今後の行政施策の参考とする。

期 間：令和元年12月17日～令和2年1月8日

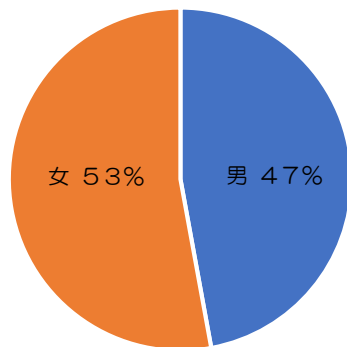
調査対象：ながさきWEB県政アンケートモニター（338名）

回答状況：278名（回答率82.2%）

担 当 課：長崎県廃棄物対策課

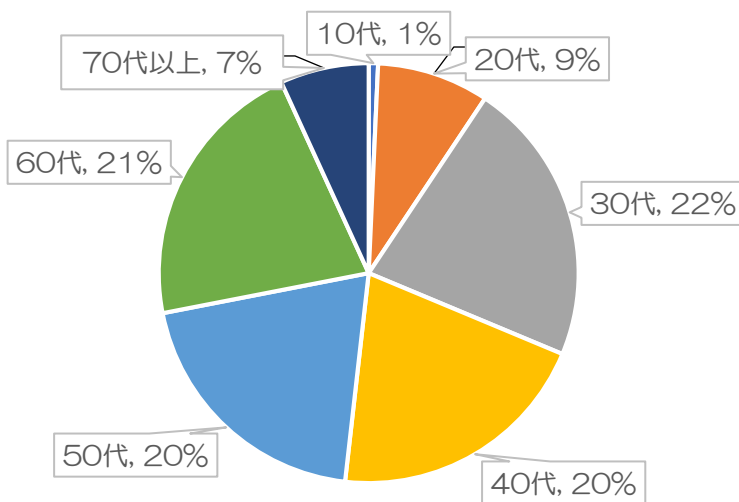
※ 小数点以下第1位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

■回答者の属性



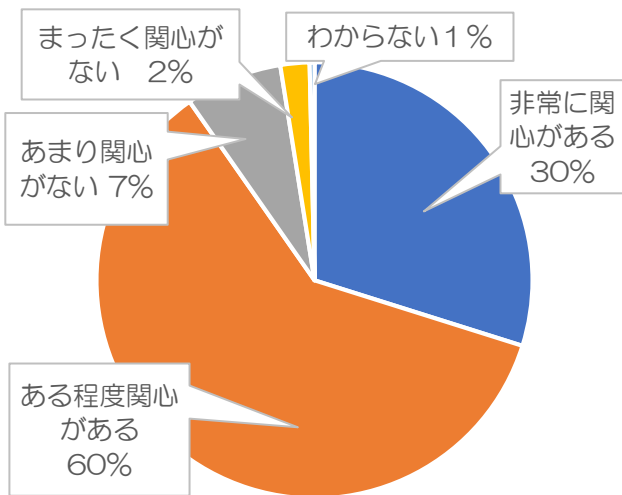
区分	人数	構成比
男	131	47%
女	147	53%
計	278	100%

■ 男 ■ 女



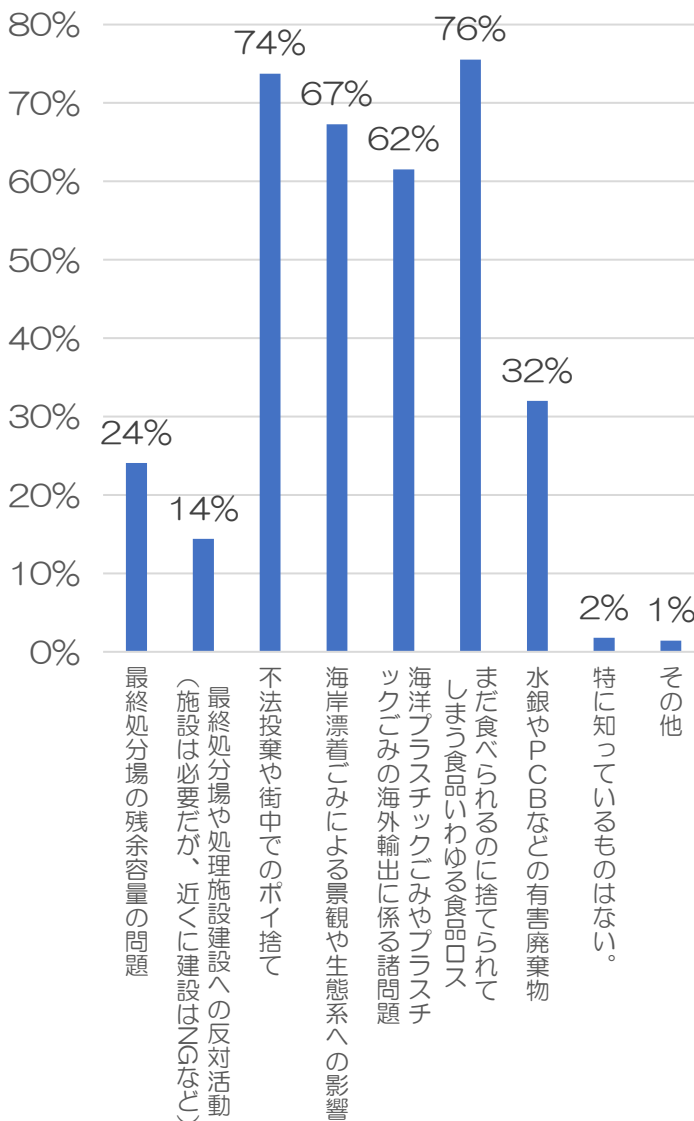
年齢	人数	割合
10代	2	1%
20代	24	9%
30代	61	22%
40代	57	20%
50代	56	20%
60代	59	21%
70代以上	19	7%
合計	278	100%

問1 あなたはごみに関する問題にどの程度関心がありますか。(1つ選択)



選択肢	回答者数	割合
非常に関心がある	83	30%
ある程度関心がある	168	60%
あまり関心がない	20	7%
まったく関心がない	6	2%
わからない	1	1%
合計	278	100%

問2 ごみに関する問題について、どのようなことに関心がありますか。(複数回答可)



選択肢	回答者数	割合
最終処分場の残余容量の問題	67	24%
最終処分場や処理施設建設への反対活動 (施設は必要だが、近くに建設はNGなど)	40	14%
不法投棄や街中でのポイ捨て	205	74%
海岸漂着ごみによる景観や生態系への影響	187	67%
海洋プラスチックごみやプラスチックごみの海外輸出に係る諸問題	171	62%
まだ食べられるのに捨てられてしまう食品 いわゆる食品ロス	210	76%
水銀やPCBなどの有害廃棄物	89	32%
特に知っているものはない。	5	2%
その他	4	1%

<その他回答>

- ・分別
- ・知っているが特に関心のあるものはない
- ・ゴミのリサイクル
- ・家庭、事業所からの生ゴミの有機肥料としての再生利用

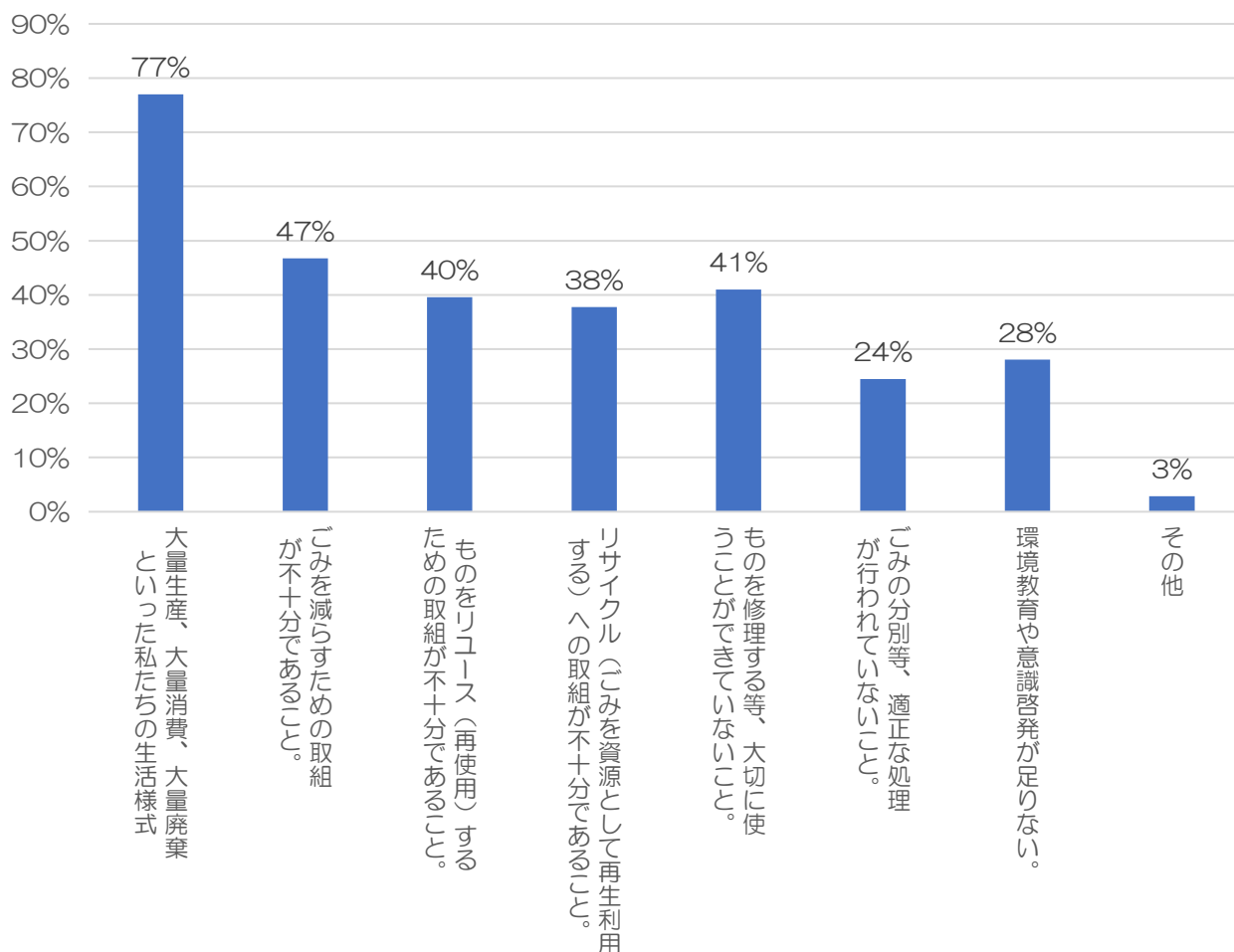
問3 ごみに関する問題について、私たちの社会の何が原因だと思いますか。

(3つまで選択可)

選択肢	回答者数	割合
大量生産、大量消費、大量廃棄といった私たちの生活様式	214	77%
ごみを減らすための取組が不十分であること。	130	47%
ものをリユース（再使用）するための取組が不十分であること。	110	40%
リサイクル（ごみを資源として再生利用する）への取組が不十分であること。	105	38%
ものを修理する等、大切に使うことができていないこと。	114	41%
ごみの分別等、適正な処理が行われていないこと。	68	24%
環境教育や意識啓発が足りない。	78	28%
その他	8	3%

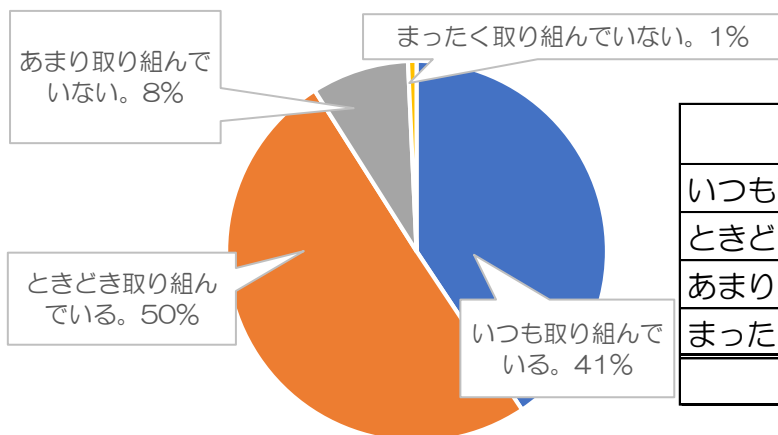
<その他回答（一部）>

- ・リデュースの意識が育っていない。
- ・中国人や韓国人によるごみのポイ捨てならびに常識の欠如による放尿、便のまき散らし
- ・過剰包装
- ・ごみを捨てることが、自分に直接的な悪影響がないため。例えばポイ捨てをすると罰金刑になるなど直接的な影響があるとポイ捨てが減る。逆にリサイクルをするとポイントが貯まるなどのメリットを貰えるとリサイクルが促進される。
- ・忙しく時間に追われて生活しているので、時間短縮できる使い捨てなどに頼りがち。余裕を持った生活をすることも、大切だと思う。
- ・サーマルリサイクルの促進が不足なこと。
- ・物を最後まで大切に使うとゆう教育がなされていません。
- ・パッケージの有料化を図る。



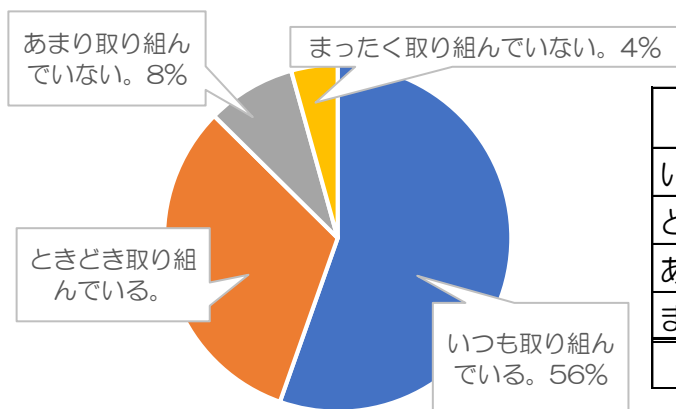
問4 日頃の生活の中でのごみを減らすための取り組みについて、
当てはまるものをお選びください。

(1) 不要なものは買わないようにする。



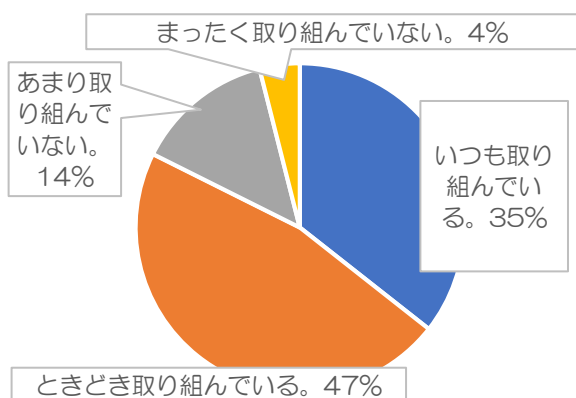
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	113	41%
ときどき取り組んでいる。	140	50%
あまり取り組んでいない。	23	8%
まったく取り組んでいない。	2	1%
合計	278	100%

(2) マイバッグを持参してレジ袋をもらわないようにする。



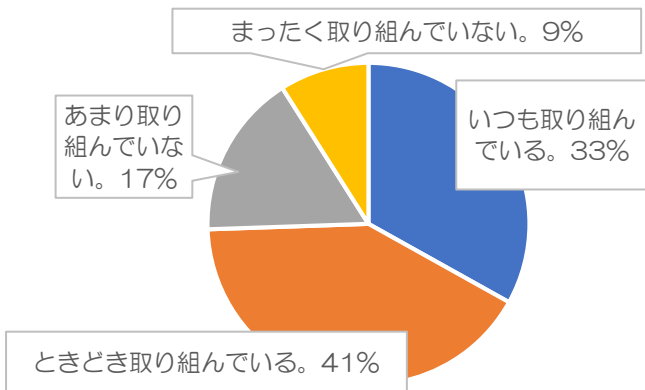
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	154	56%
ときどき取り組んでいる。	89	32%
あまり取り組んでいない。	23	8%
まったく取り組んでいない。	12	4%
合計	278	100%

(3) 簡易包装の商品を購入する。



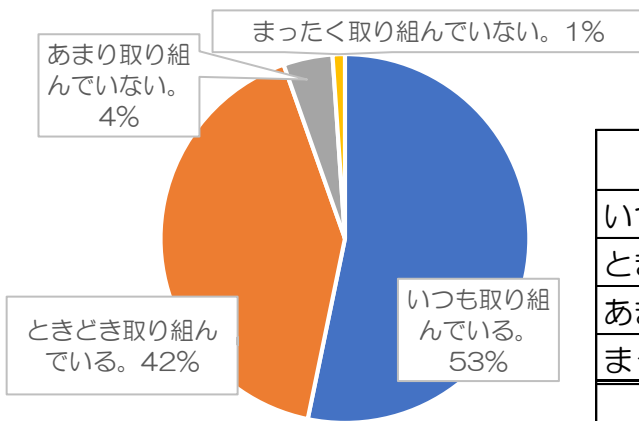
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	99	35%
ときどき取り組んでいる。	130	47%
あまり取り組んでいない。	38	14%
まったく取り組んでいない。	11	4%
合計	278	100%

(4) マイボトルやマイ箸を持参するなど、リユース品の使用を心がける。



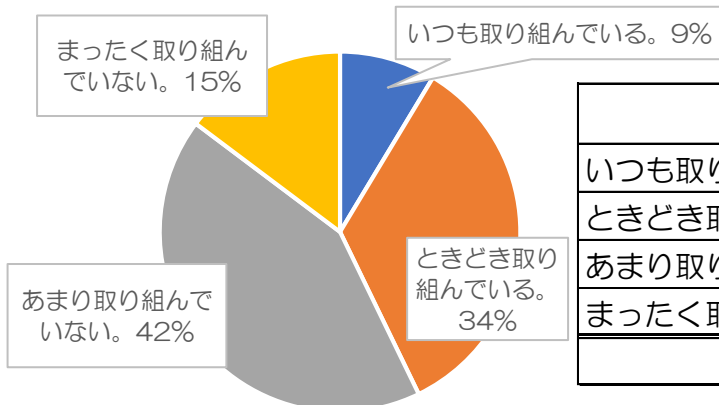
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	92	33%
ときどき取り組んでいる。	115	41%
あまり取り組んでいない。	46	17%
まったく取り組んでいない。	25	9%
合計	278	100%

(5) 使い捨て商品を買わず、詰め替え用商品を選ぶようにする。



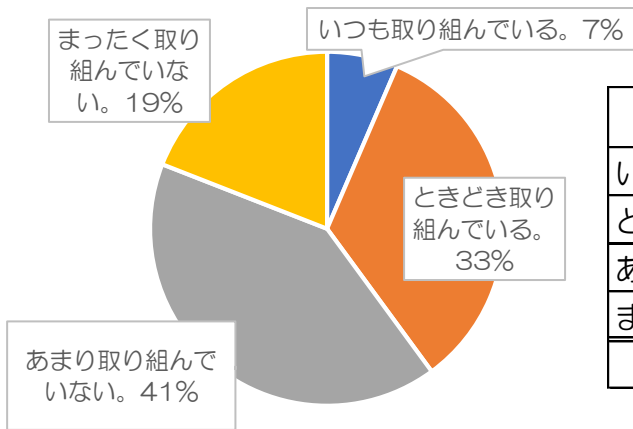
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	148	53%
ときどき取り組んでいる。	115	42%
あまり取り組んでいない。	12	4%
まったく取り組んでいない。	3	1%
合計	278	100%

(6) プラスチック製品の購入や使用を極力避けるようにしている。



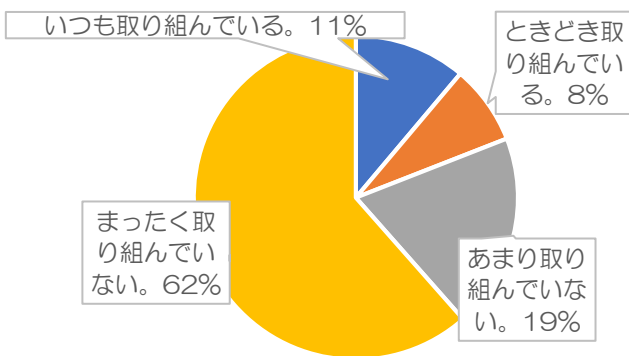
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	24	9%
ときどき取り組んでいる。	95	34%
あまり取り組んでいない。	118	42%
まったく取り組んでいない。	41	15%
合計	278	100%

(7) プラスチック削減に取り組む企業の商品を選択するよう心がける。



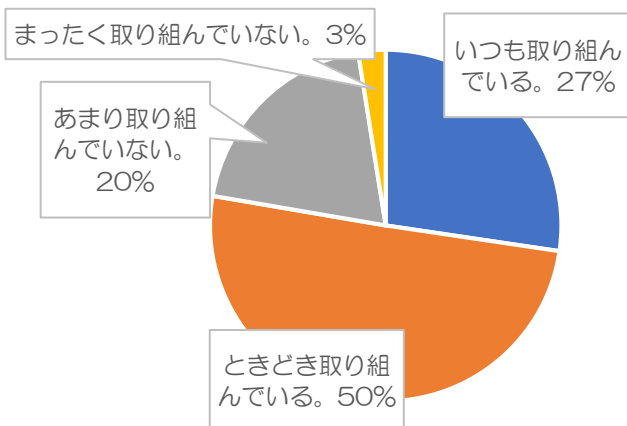
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	18	7%
ときどき取り組んでいる。	93	33%
あまり取り組んでいない。	114	41%
まったく取り組んでいない。	53	19%
合計	278	100%

(8) 生ごみを堆肥にする。



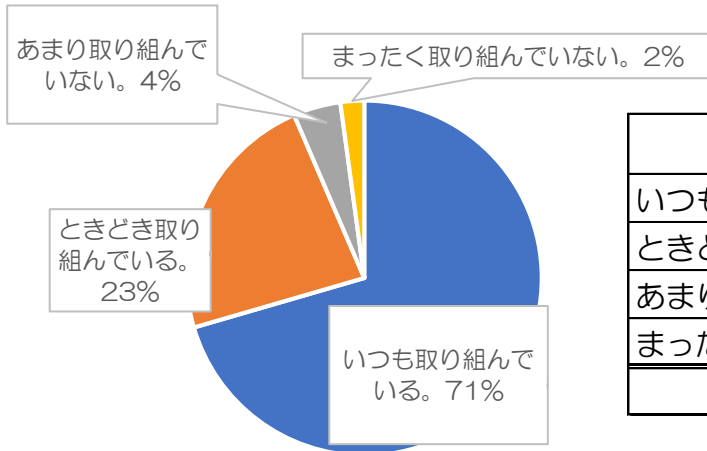
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	31	11%
ときどき取り組んでいる。	22	8%
あまり取り組んでいない。	54	19%
まったく取り組んでいない。	171	62%
合計	278	100%

(9) 壊れたものを修理して使うなど、ものを大切に使う。



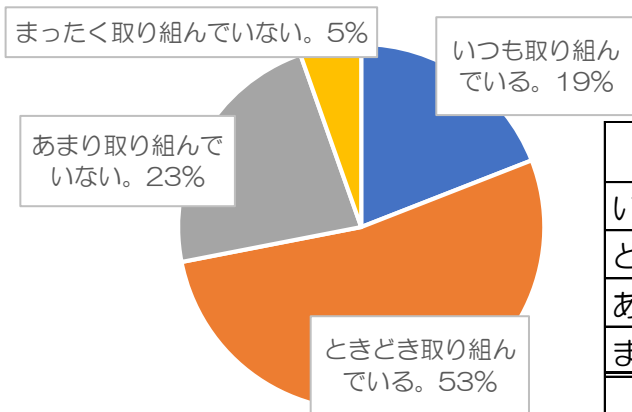
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	76	27%
ときどき取り組んでいる。	140	50%
あまり取り組んでいない。	55	20%
まったく取り組んでいない。	7	3%
合計	278	100%

(10) ごみをリサイクルしやすいように、きちんと分別する。



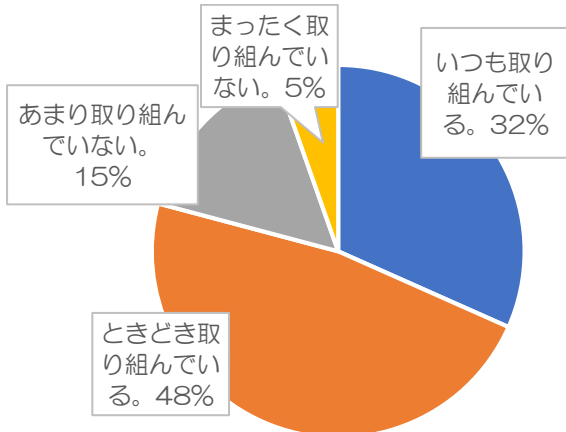
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	196	71%
ときどき取り組んでいる。	64	23%
あまり取り組んでいない。	12	4%
まったく取り組んでいない。	6	2%
合計	278	100%

(11) ごみが落ちていたら、率先して拾うようにする。



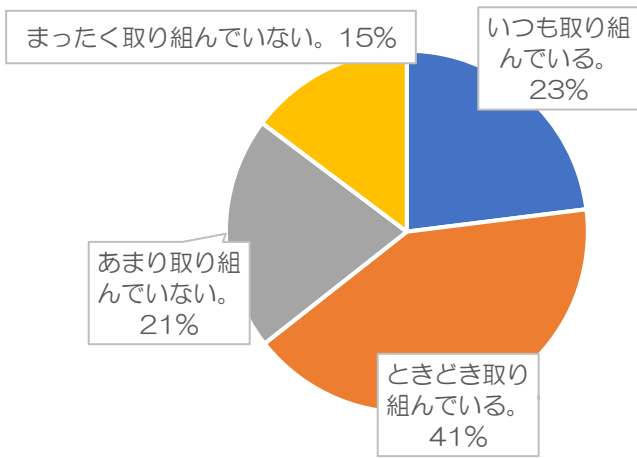
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	53	19%
ときどき取り組んでいる。	147	53%
あまり取り組んでいない。	63	23%
まったく取り組んでいない。	15	5%
合計	278	100%

(12) 一度使った封筒や片面使用済みの紙の裏を再使用するなど、できるだけものを再使用するようにする。



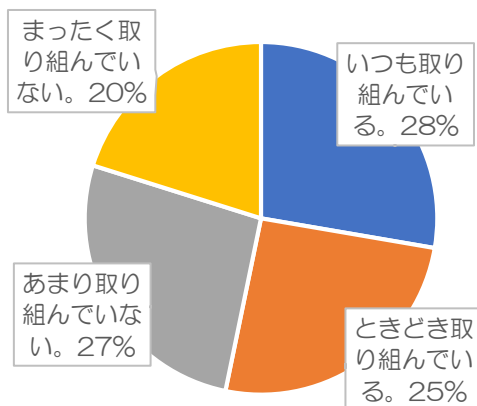
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	88	32%
ときどき取り組んでいる。	132	48%
あまり取り組んでいない。	43	15%
まったく取り組んでいない。	15	5%
合計	278	100%

(13) リサイクルショップやフリーマーケット、ネットオークションを利用する。



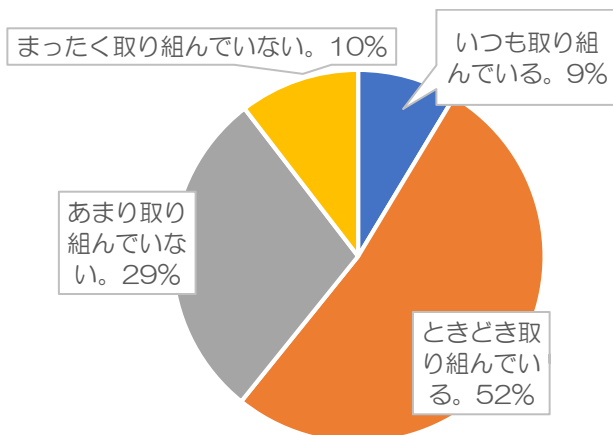
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	64	23%
ときどき取り組んでいる。	115	41%
あまり取り組んでいない。	58	21%
まったく取り組んでいない。	41	15%
合計	278	100%

(14) 使わなくなった携帯電話等を回収ボックスへ投入するなど、店舗や自治体等が設置している品目専用の回収を利用する。



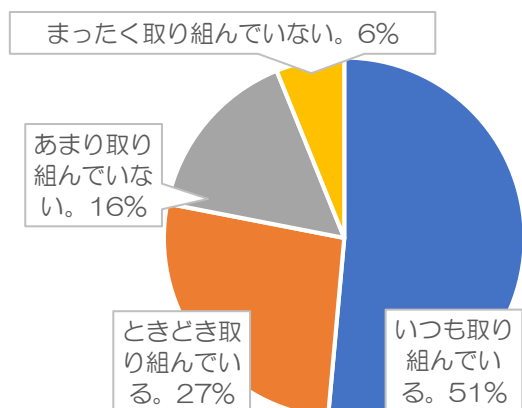
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	77	28%
ときどき取り組んでいる。	71	25%
あまり取り組んでいない。	74	27%
まったく取り組んでいない。	56	20%
合計	278	100%

(15) リサイクルされた製品を使う。



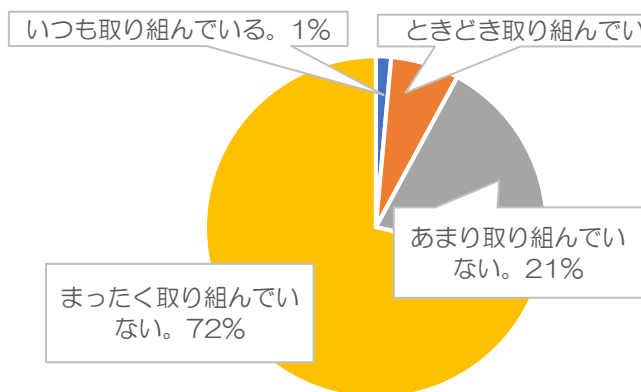
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	24	9%
ときどき取り組んでいる。	145	52%
あまり取り組んでいない。	80	29%
まったく取り組んでいない。	29	10%
合計	278	100%

(16) 小盛りメニューを注文する等、食べ残しによるごみを出さないようにする。



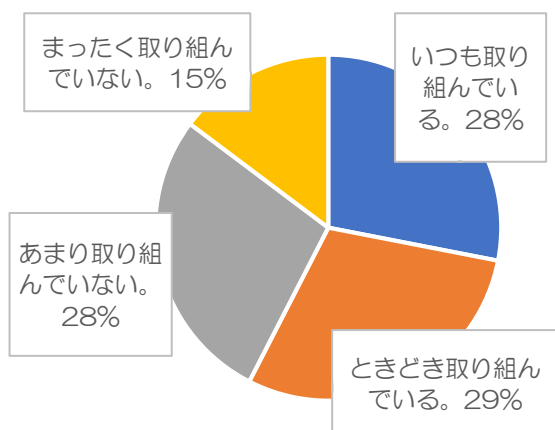
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	143	51%
ときどき取り組んでいる。	74	27%
あまり取り組んでいない。	44	16%
まったく取り組んでいない。	17	6%
合計	278	100%

(17) フードバンクなどを通じて、余った食品などを提供する。



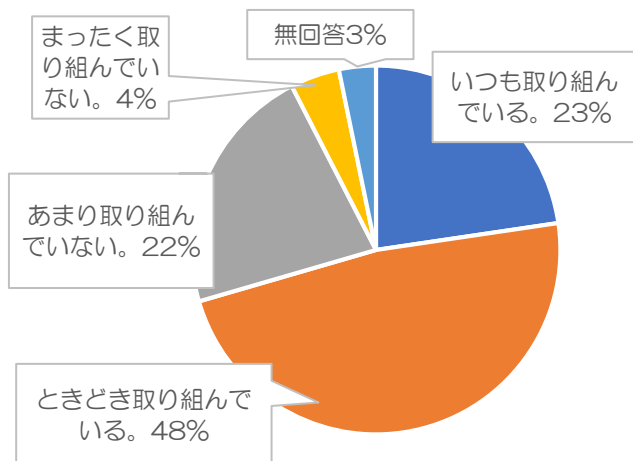
選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	4	1%
ときどき取り組んでいる。	18	6%
あまり取り組んでいない。	57	21%
まったく取り組んでいない。	199	72%
合計	278	100%

(18) すぐに食べるものは、賞味期限・消費期限の短いものから買うようにする。



選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	78	28%
ときどき取り組んでいる。	82	29%
あまり取り組んでいない。	77	28%
まったく取り組んでいない。	41	15%
合計	278	100%

(19) その他、日頃の生活の中でごみを減らす取り組みを実践されていらっしゃいますか。
実践内容と取組状況についてお答えください。



選択肢	回答者数	割合
いつも取り組んでいる。	63	23%
ときどき取り組んでいる。	133	48%
あまり取り組んでいない。	61	22%
まったく取り組んでいない。	12	4%
無回答	9	3%
合計	278	100%

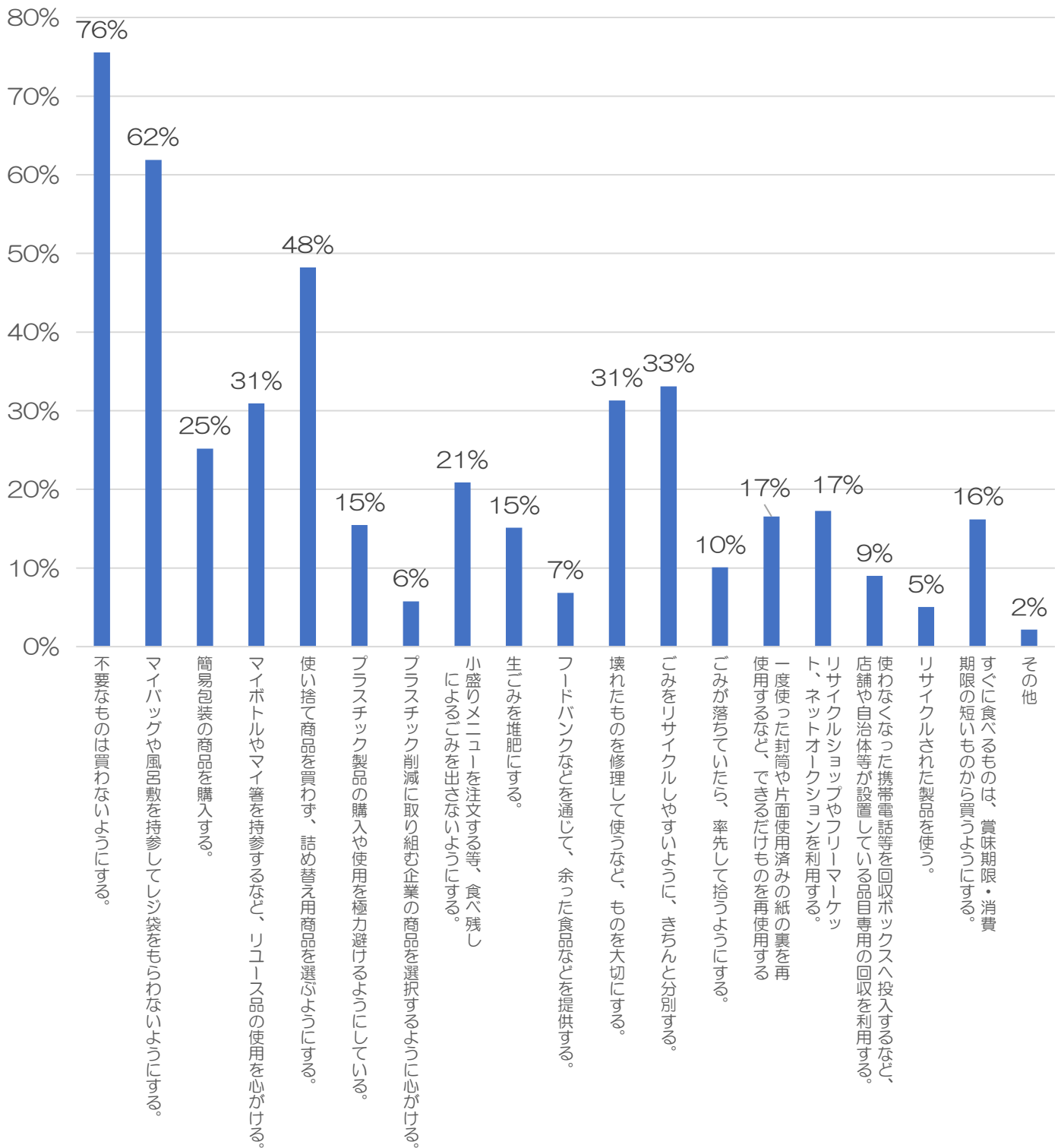
<その他の実践内容と取組状況（一部）>

- ・チラシやメモ用紙・ノート・テキスト、雑誌や書籍を溜めておいて、古紙回収や廃品回収に出す。
- ・プラスチックのトレーなどは店のリサイクルボックスに持っていく。
- ・食べ残しが出ないようにする。
- ・燃えるごみはできるだけ小さな袋の中に入る程度に出すように気をつけている紙類はリサイクルに出す。
- ・「訳あり品」を積極的に購入する。
- ・忙しくてリサイクルに手が回らない姉や友人の不用品を代理で販売したり、修理して自分で使ったりしている。
- ・肉屋さんに行く（パックがでないから）
- ・物を必要以上買わないようにしてます。
- ・弁当などの容器等は、洗って回収日にまとめてリサイクルに出している。
- ・食品をいいもの気に入ったものを購入して使い切る。やや高価ですがその方が大事に使う。
- ・野菜の皮も金平とかにして、なるべくごみを出さないようにしている。
- ・必要なものを必要なだけ購入する。
- ・本当に必要なものか買うときによく考える。
- ・食品トレー、牛乳パックなどスーパーで回収しているところに持っていく。

問5 ごみを減らすために特に取り組んでいくべきことは何だと思えますか。

(5つまで選択可)

選択肢	回答者数	割合
不要なものは買わないようにする。	210	76%
マイバッグや風呂敷を持参してレジ袋をもらわないようにする。	172	62%
簡易包装の商品を購入する。	70	25%
マイボトルやマイ箸を持参するなど、リユース品の使用を心がける。	86	31%
使い捨て商品を買わず、詰め替え用商品を選ぶようにする。	134	48%
プラスチック製品の購入や使用を極力避けるようにしている。	43	15%
プラスチック削減に取り組む企業の商品を選択するように心がける。	16	6%
小盛りメニューを注文する等、食べ残しによるごみを出さないようにする。	58	21%
生ごみを堆肥にする。	42	15%
フードバンクなどを通じて、余った食品などを提供する。	19	7%
壊れたものを修理して使うなど、ものを大切にする。	87	31%
ごみをリサイクルしやすいように、きちんと分別する。	92	33%
ごみが落ちていたら、率先して拾うようにする。	28	10%
一度使った封筒や片面使用済みの紙の裏を再使用するなど、できるだけものを再使用する	46	17%
リサイクルショップやフリーマーケット、ネットオークションを利用する。	48	17%
使わなくなった携帯電話等を回収ボックスへ投入するなど、店舗や自治体等が設置している品目専用の回収を利用する。	25	9%
リサイクルされた製品を使う。	14	5%
すぐに食べるものは、賞味期限・消費期限の短いものから買うようにする。	45	16%
その他	6	2%

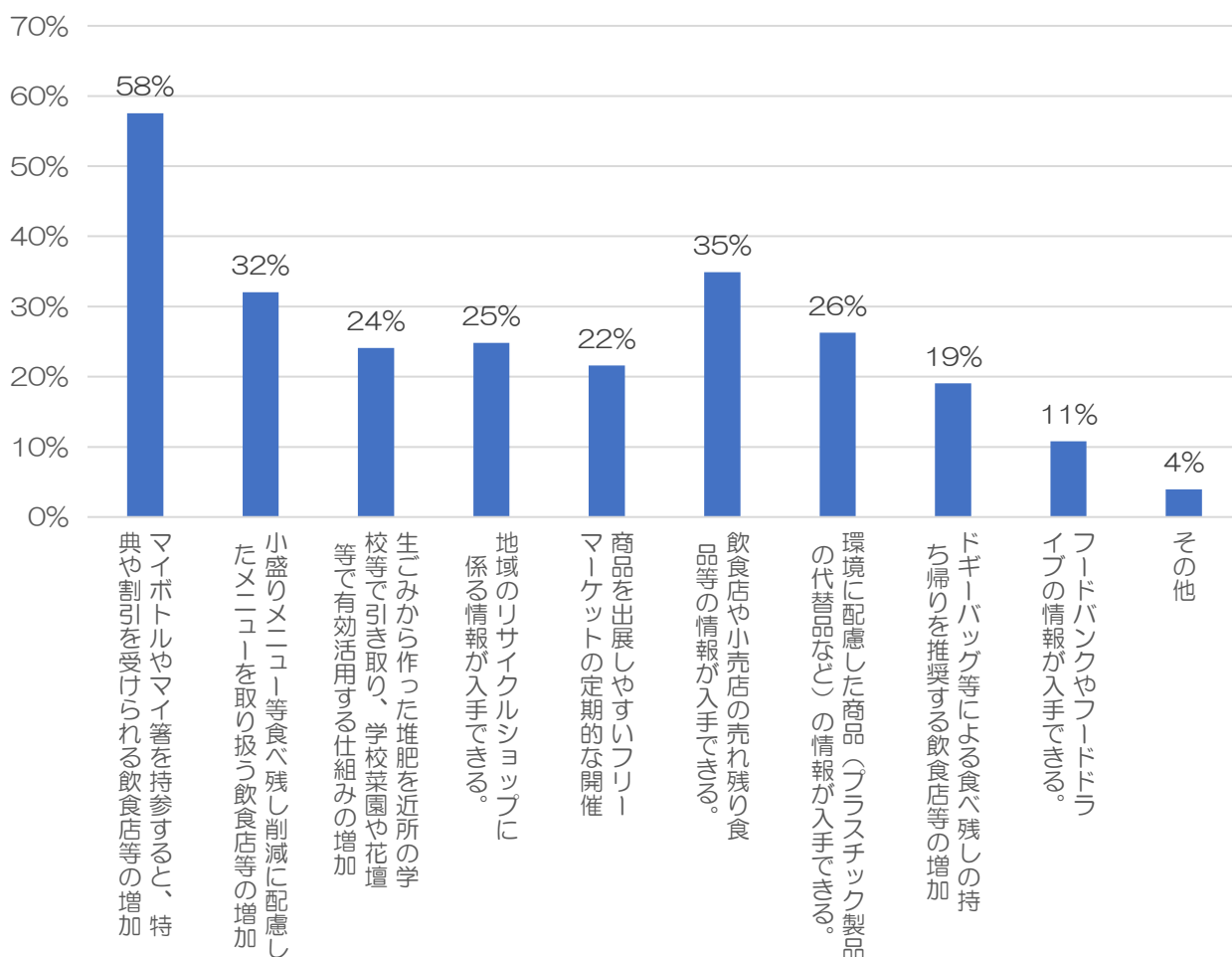


<その他回答>

- 外国人によるごみを減らす対策。
- 個々人の意識を変えること
- 企業にパッケージの素材の改良についてもっと積極的に取り組んで欲しい。何かを購入すると必ずパッケージで売られている。これはゴミになると結構嵩張る。なのでもっとシンプルで環境に優しい素材でできた容器物でいい気がする。
- ゴみの分別を、鹿児島県大崎町のように徹底し、資源リサイクルする。
- ゴミはどんどん焼却する。下手にリサイクルしようとする中間滞留が増えて処理し切れなくなる。堆肥はすでに国内には過剰に存在するので燃やしてしまった方がよい。
- リサイクルよりリユースや長期使用の方が重要だと思います。

問6 次の施策のうち、ごみの減量化に取り組むきっかけとなりそうなものは何ですか。
(3つまで選択可)

選択肢	回答者数	割合
マイボトルやマイ箸を持参すると、特典や割引を受けられる飲食店等の増加	160	58%
小盛りメニュー等食べ残し削減に配慮したメニューを取り扱う飲食店等の増加	89	32%
生ごみから作った堆肥を近所の学校等で引き取り、学校菜園や花壇等で有効活用する仕組みの増加	67	24%
地域のリサイクルショップに係る情報が入手できる。	69	25%
商品を出展しやすいフリーマーケットの定期的な開催	60	22%
飲食店や小売店の売れ残り食品等の情報が入手できる。	97	35%
環境に配慮した商品（プラスチック製品の代替品など）の情報が入手できる。	73	26%
ドギーバッグ等による食べ残しの持ち帰りを推奨する飲食店等の増加	53	19%
フードバンクやフードドライブの情報が入手できる。	30	11%
その他	11	4%

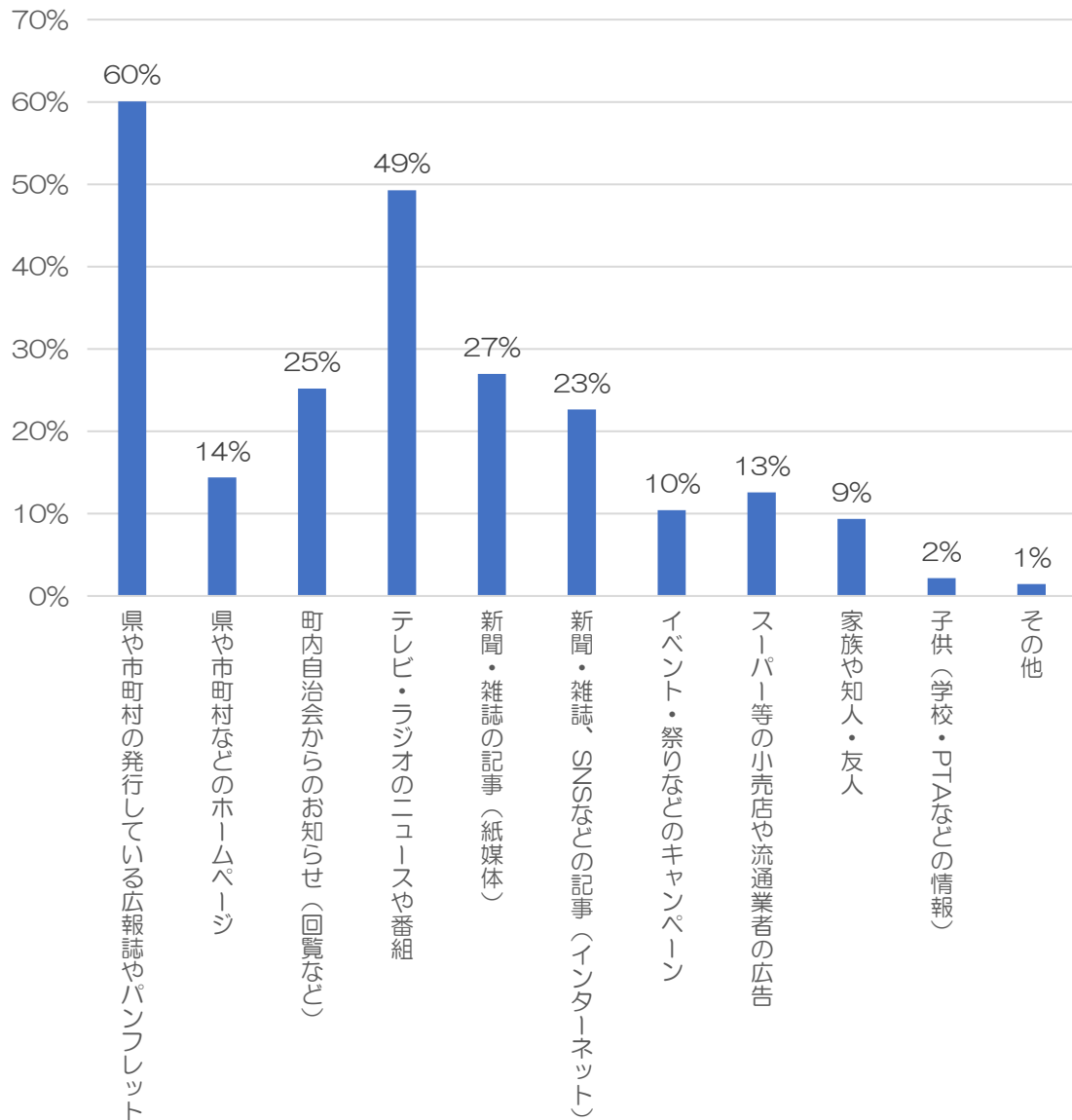


<その他回答>

- コンビニの捨て弁割引
- 電気製品の修理代金を安くする。
- 過剰包装、過剰デザインのプラスチック製品の製造を禁止し、シンプルなユニバーサルデザインの物として自然、環境にこれ以上負荷をかけないようにする。
- 資源ごみなどの分別をきちんとする。
- ものを大事にする、もったいない精神の総合的な学校教育。
- エコ減税として住民所得税の税額控除対象措置を長崎県が策定し、その一方で個々人の取り組みを客観性のある数値化をした上で減税措置の対象にするなど。
- 痛い目にあってみないとわからない人が多すぎると思います。都会の子供や大人、老若男女にかかわらず田舎暮らしをして不便な経験をしてほしいです。
- ゴみの処理にいくらかかっているのか県民 1 人当たり、幾らなのかお金で危機感を煽る
- ゴみの分別を、鹿児島県大崎町のように徹底し、資源リサイクルしてお金に換え、地域に還元する。
- 昔のように回収瓶の活用
- パッケージの有料化が良いことだという啓蒙

問7 普段の生活の中で、ごみの減量化に向けた取り組み等について、どこで情報を入手していますか。（3つまで選択可）

選択肢	回答者数	割合
県や市町村の発行している広報誌やパンフレット	167	60%
県や市町村などのホームページ	40	14%
町内自治会からのお知らせ（回覧など）	70	25%
テレビ・ラジオのニュースや番組	137	49%
新聞・雑誌の記事（紙媒体）	75	27%
新聞・雑誌、SNSなどの記事（インターネット）	63	23%
イベント・祭りなどのキャンペーン	29	10%
スーパー等の小売店や流通業者の広告	35	13%
家族や知人・友人	26	9%
子供（学校・PTAなどの情報）	6	2%
その他	4	1%



<その他回答>

- ・ 特になし
- ・ そんな情報必要じゃないから情報があがっても目に留まらない。
- ・ ゴミの減量化も大事だが、ゴミステーションの設置にまだまだ問題がある。道路横のゴミステーションは、網を被せるだけのタイプで、臭いもするし、カラスがゴミを撒き散らし、これでは、ゴミを減らそうとか衛生的に捨てようと思う意欲が減るのではないか。市に言っても、鍵の問題、設置場所の問題があると言うだけで、毎週カラスがゴミを撒き散らしているのは解決しない。その辺も改善しては頂けないでしょうか。